



# 怖い音源

福田 隆

皆さんは、SPレコードを聴いた事はありませんか。

今では、CDすら斜陽化し、ネット配信の音楽の方が主流のようですが、私が大学生の頃は、まだLPレコードが全盛でした。埃が付かないように気を使って保存したレコードをプレーヤーに乗せて、緊張と期待を持って針を落とすと、ある意味儀式的な行為から、当時はオーディオが趣味という概念が幅広い年齢層にあり、秋葉原はそういうマニア達のメッカでもありました（今では秋葉原も随分、変わってしまったが…）。

大学に入って間もない時に受けた授業で、「君達は大学に入れたお祝いに、グラントピアノを買ってもらおう位なら、同じ金額のオーディオを買ってもらいなさい」と言われた先生の言葉が印象的で、その時は意味が分からなかったのですが、大学卒業後その事を実感するショックingtonな出来事がありました。

それは、関西のバイオリン製作者の方からSPレコードを聞かされた事でした。曲はクライスターの自作自演の《愛の喜び》《愛の悲しみ》

などでしたが、シャーシャーという雑音の中から、まるでそこにクライスターが立ってバイオリンを弾いているかのようなリアルな音が聞こえて来た事に、ぞつとするような鮮烈な印象を持ったのを、今でも鮮明に思い出します。逆に、同じ音源をLPレコードで持っていたので、自宅に帰り聴き返してみた時の、ツルリとした、何とも味気ない音の印象に失望した事も、マイナスのイメージとして記憶に残っています

今では、ユーチューブに代表されるように、メディア配信の音楽や動画が楽々と手に入りませんが、そこでは私がSPで経験したような感動は得られないような気がします。LPレコードを悪く書いたように思われたかも知れませんが、普通のCDプレーヤーやMP3プレーヤーで聴く音楽よりは、まだまだなめらかで温かみのある音楽が聴けると思います。

皆さんもたまには図書館のLPレコードが聴けるコーナーで、心静かに、出来れば作曲家の自筆譜を注意深く読みながら、音楽に耳を傾けて見ると新しい発見があるかも知れませんよ…。

● ぶくだたかし 本学教授(打楽器)